

令和5年度 江津市立桜江中学校学校評価報告書

◇評価数値 A：十分達成 B：おおむね達成 C：課題がみられる D：大きな課題がみられる

中期目標	短期目標	評価の観点	目標のための具体的方策			自己評価	評価	改善の方向性	学校関係者評価	評価
			だれが	いつ	どのように	達成状況			考察	
(一) 課題の解決に粘り強く向かっていく力の定着(知)	授業改善と教科指導の充実	・校内研究テーマに基づき、授業改善及び指導の工夫がなされている。	全職員	年間	・校内研究テーマに基づき、年間に一人一授業を公開し、評価・改善を行う。	・年間一人一授業の公開と、教員同士の相互評価を行い、改善につなげた。また、全授業ではないが、市教委より指導主事を招いて指導を受けることもできた。	A	・今後も一人一授業の公開を継続する。来年度1月末までに全員が授業を公開し、評価・改善を行うようにしたい。 ・指導主事、外部からの指導を受けることも継続して行っていきたい。 ・参観しやすい曜日、時間を設定したい。(月・水午前等)	授業の公開を出来れば2学期中に実施されるほうが良いのではないかと思います。	A
	言語活動の充実と環境の整備	・各教科及び行事等において、言語活動の充実が図られている。 ・言語活動の充実に必要な環境が整備されている。	全職員	年間	・各教科及び行事等において、言語活動を取り入れる。 ・生徒が活用できるタブレットや図書の整備を行う。	・話し合ったり、感想を書いたり、発表をしたりするなどして、各教科及び行事等において言語活動を取り入れることができた。その際タブレットを活用することができた。 ・総合的な学習の時間に利用できる図書の整備を行うことができた。	A	・図書資料がどの教科でも活用しやすくなるよう、資料の収集や学校図書館支援員との連携を引き続き進めていきたい。	タブレットの活用をどんどん推し進めてください。 学校図書館支援員との連携はこまめにするように努力してください。	A
	教育的ニーズに対応した特別支援教育の推進	・生徒一人一人の教育的ニーズに応じた支援が図られている。 ・特別支援教育コーディネーターを中心として、支援計画に基づきながら組織的に対応が図られている。	全職員	年間	・職員会で情報を共有し、生徒の困り感や実態把握を行い支援方法を検討する。 ・通級指導教室と連携したり、江津市巡回教育相談を活用するなどして、個に応じた支援を行う。	・職員会での情報共有を行うことができた。 ・外部機関との連携を適切に行うことができた。 ・個別の支援計画、指導計画の作成も計画的にできた。	A	・特に1年生は小学校との連携が大切で、より丁寧に生徒の実態把握を行う必要がある。 ・3年生では1, 2年時での困り感をしっかり把握することが、卒業後のより良い進路選択につながる。	生徒の実態把握は大切です。保護者も巻き込んでの指導に努めてください。	A
	家庭学習の充実と基礎・基本の定着	・授業と関連した自主学習や宿題等の家庭学習課題が計画的に示され、基礎・基本の定着と学習習慣の定着が図られている。	全職員	年間	・自学ノートの取り組みについて教職員間で共有する。全校で揃えること、学年部の実態に応じて柔軟にするところについての基準を明確にする。 ・効果的な自学ノートや家庭学習の課題について職員会で情報共有する。 ・学年の学習の実態について情報共有し、課題と効果的な指導方法について協議する。	・自学ノートの取り組み方について年度当初に教職員間で共有できた。2年生については取り組みは良好。1, 3年生は数名提出が難しい生徒がおり、声かけを継続したり別課題を渡したりした。 ・自学ノートの取り組みについて否定的な意見に目が行きがちであるが、こつこつ取り組み学力を蓄えている生徒も多い。一定の成果はあったと思う。 ・宿題がテスト前に集中しないよう、普段から適宜適量を課題とする必要がある。 ・学習習慣の形成において家庭でのメディア時間の取り方は大きく影響する。保護者にも、メディアの時間のコントロールを家庭でお願いしたい。	B	・3年生はノートにこだわらず問題集の提出も可とした。生徒の頑張りに教師がコメントで伴走する形で、複数冊の問題集を仕上げた生徒もおり、成果が見られた。学年の状況により、問題集に取り組むなど、柔軟に対応する。学力低位の生徒については、個別課題も有効ではないか。 ・課題の出し方について、確認をする。 ・メディア時間の多さが学力に大きく影響することを保護者に伝え、指導をお願いする。 ・生徒のモチベーション向上のための働きかけについて案を出す。	個別課題の有効性について取り組んでください。 メディア時間の多さが学力に大きく影響することを保護者にも伝えることは大切です。	B

(2) 互いに認め合い、共に生きていく力(徳) ・ふるさとに学び、社会とともに生きる意欲と態度(社)	望ましい人間関係作り	・主体的で協力的な生徒活動ができています。	全職員	年間	・行事での縦割り班や生徒会活動を通して、他者と関わり主体的な活動をする場面をつくる。	A	・今後も縦割り班で活動する機会を維持する。 ・リーダーシップをとる生徒が見通しをもちながら自信をもって活動できるよう、事前の打ち合わせなどを行う。	・行事の度ごとに一人ひとりの思いが集結し協力し合った一年となった。 ・意欲的に活動できている。	A
		・生徒理解に基づき積極的かつ組織的な生徒指導を実践している。	全職員	年間	・アンケートや面談、日頃の生徒理解等により、実態把握に努める。 ・必要に応じて情報共有を行い、一部の職員だけでなく組織で動けるように報告・連絡・相談を徹底する。 ・職員会で定期的に情報交換を行い、学習規律の確立など生徒が安心して学校生活を送れる環境をつくる。 ・各授業等を通し全ての生徒にとって自らの居場所や他との絆を実感できる教育活動をすすめる。	A	・メディアや人間関係のトラブルの未然防止に向け、今まで以上に生徒が安全・安心に過ごせる環境を整える。 ・各学年、生徒指導について引き続き密に情報共有を行い、組織的に細やかな対応をしていきたい。	・教職員間の情報共有がしっかりでき、指導の方向性を同じくしながら全体での取り組みがスムーズに行われている。 ・日頃の生徒の様子をよく見ていただいた。	A
	人権・同和教育の推進	・全体計画を基に、人権・同和教育の推進に取り組んでいる。	全職員	年間	・参加型の職員研修を実施し職員の人権意識を高める。 ・人権講演会や人権集会を中心とした人権月間に重点的に、教職員全員で人権教育に取り組む。 ・日常生活の中にある人権課題について、授業や職員会等で話題にし、人権感覚を磨こうとする雰囲気をつくる。	A	・人権・同和教育の題材表について、年度末に振り返り、改善したものを学年部案・教科部会案として来年度に出す。 ・人権・同和教育部を複数で運営し、取り組みを広げる。 ・まずは職員が人権感覚を磨いていくために、適切に情報提供・共有をする。 ・人権講演会や人権の授業について	・人権講演や集会を通して、「自分や人を大切にすること」という生徒の回答が95%であることで人権感覚は培われて行っていると思われる。 ・日頃からミニ研修を行い更に生徒の意識を定着させてほしい。	A
	道徳教育の充実と体験活動の推進	・「考え、議論する道徳」に取り組むことで、人間としての生き方について考えを深めさせている。	全職員	年間	・自分の考えを表現し、深められるような言語活動の場を設定する。	A	・引き続き「考え、議論する道徳」を意識した授業づくりを行っている。 ・全体での発表だけでなく、ペアやグループでの活動も取り入れ、話し合いに参加しやすい雰囲気づくりをしていく。	・自ら考え、それをまとめて言葉にする作業が活発にできている。 ・人権月間の取り組みとして授業でできたことも、大きな成果である。	A
	ふるさと・キャリア教育の推進	・自己理解を深めさせるとともに、将来像を考えさせている。	全職員	年間	・総合的な学習の時間や学活を中心に、自分の将来の姿とふるさとの未来を関連させて考えられる授業を設定する。 ・キャリアパスポートの活用を通して、今の自分を振り返り、自分のキャリアを考察する機会を設定する。	A	・偏りのないように体験活動を計画したり、地域の方の思いを聞く機会を計画したりする。 ・キャリアパスポートの活用を継続し、自分自身を振り返り、成長を促せるようにする。	・総合発表会で故郷の今現在をまとめ、自分自身もその中の一員であることが自覚できている。 ・キャリアパスポートの活用で将来の自分を描けるようその手掛かりとなるようにしていただきたい。	A
		・他者の立場や考えを尊重し、思いを受容する力を育てている。	全職員	年間	・学習の中で、互いの意見を交流させ、相手の考えを尊重したり、思いを汲み取ったりしたうえで、自分の考えを深められるような場を設定する。	A	・行事の計画立案や取組の中で、しっかり意見交換をさせ、相手の考えを理解し尊重する場面を意図的につくるようにする。	計画的、意識的に場面を設定して生徒同士の意見交流を促し、考えを深めさせている。生徒は相手にわかりやすく発表しよう意識し、話し合いにより自分の考えが深まっていると感じており成果が伺える。	A
		・ふるさとへの誇りを育てている。	全職員	年間	・ふるさとの良さや課題、未来を考える機会を設定し、ふるさとへの理解や愛着が深められるようにする。 ・地域講師の話から、地域への思いを考察する機会を設定する。	A	・地域の「ひと・もの・こと」を活かした学習と学年間の系統的な学習展開をさらに工夫したい。 ・年度当初に講演会の時期や講師の見通しをもつようにする。	「ひと・もの・こと」を活用した効果的な学習が展開されており、生徒のアンケートからもふるさとについての理解は深まっていると受け止めた。ふるさとへの愛着が深まり誇りが育ったかについてはアンケート項目にないので評価が難しい。	A

(3) 健康と体力の向上に取り組み育成(体)	学校保健、食育の推進	・メディアコントロールについての取組を生徒会活動を中心に継続的に行っている。	保体部	年間	・学期に1回メディアコントロールウィークを実施し、保体部の生徒が説明や配付、結果の集計をすることで、生徒たちの意識をより高めるようにする。	・生徒会保体部の生徒にメディアコントロールウィークの取組に参加させることに加え、身体測定後の保健指導を全学年に行うことで、生徒の意識を高めることができた。	A	・引き続き、生徒会保体部を中心に、学校全体で取組を続けていきたい。また、結果の集計について、保体部の生徒に放送で全校に呼びかけるなど、より生徒の関心を高めるような取組を行いたい。	生徒会の取組として実施できていることが良い。それに合わせ全校生徒に保健指導を行ったことで意識がより高まったと受け止めた。ふり返りの時間の充実や取組がマンネリ化しないよう工夫の継続を期待する。	A
		・食育の授業を栄養教諭と行い、保護者と生徒に望ましい生活習慣について啓発をしている。	全職員	年間	・栄養教諭と連携し、1～3年生の授業に入ってもらうことで、生徒たちが食への意識を高め、栄養教諭と関わる機会にする。また、授業の様子を保健だよりで保護者にも周知する。	・栄養教諭が指導することで、各学年へ適切な指導を行うことができた。また、保健だよりや学校HPにて家庭・地域へ様子を周知することができた。	A	・今後も栄養教諭と連携し、学年に応じた栄養指導を計画していきたい。また、保健だよりや学校HPを活用し、情報を発信していきたい。	栄養教諭と計画的な指導や保護者への啓発ができています。生徒は健康を考えた食生活を心がけ、保護者もそう感じていることから成果が見られたと受け止めた。	A
		・外部講師を積極的に活用した授業を行っている。	全職員	年間	・メディア講演会や、バースデイプロジェクトで外部講師を活用し、生徒や保護者が参加する場を設ける。	・メディア講演会、バースデイプロジェクトを開催し、専門的な視点の講演を聞くことができた。 ・メディア講演会(学校保健委員会)では、参加しにくい日程(平日午後)であったため、参加人数が少なかった。	B	・参加しやすい日程を検討し、より多くの人が参加できるようにしていきたい。	計画的に実施できたことは評価できる。外部講師による専門的な講演会や指導は心に響きやすいと考える。生徒と保護者が一緒に受けることでより意識が高まると思うので保護者が参加しやすい日程となるよう調整をお願いしたい。	B
	勤労意欲の向上	・勤労への意欲がもてるような体験をさせる。	全職員	年間	・総合的な学習の時間を中心に、地域のことを学習したり、職業に対する地域の人の思いを聞いたりすることで、働くことの意義や役割について考えさせる。	・体験活動や見学の中で、働くことに対する思いを聞くことで、働くことの意義や、今の自分にできることを考えることができた。	A	・学年に応じた体験活動を計画したり、話の内容について事前に打合せをする。	生徒が直接地域の人と接する事により実践的な技術や知識に触れる事を通して学ぶこと働く事の意義を理解し、生きる事の尊さを学べる体験にしてほしい。	A
	体力づくりの習慣化と体力向上	・体育の授業を通して、計画的に体力づくりに取り組み、体力の向上を図っている。	体育主任	年間	・授業の中で3分間走、長距離走の計測を継続し、持久力を高める。 ・各単元で運動量を確保する。 ・どうすれば技能が向上するかを考える活動を入れ、自分に適した動きを見つける指導を行う。 ・全校で運動に親しむ機会を各学期に1回設定する。	・全校で運動に取り組む活動について、1学期に1回、2学期に1回実施をした。 ・体力テストの結果を基に、課題となる種目について授業開始時に継続して実施をした。(上体起こし) ・授業で教えあうことや、つまずきや課題の解決に取り組む場面を設定した。	A	・体力テストは年度初めに行うため1年を通しての変容を確認する。今年度2年生で上体起こしを実施した。来年度の数値に変化が見られたら全学年で実施をしていく。 ・技能の習得や、仲間とのコミュニケーションを通してより充実した授業づくりを行う。指導する部分と、考えて解決させる部分の精選をする。	定期的な体力テストを基に個々の能力に適した指導がなされていると思う。また、体力向上には生活習慣の改善、バランスの良い食生活の意識づけなど併せての指導が望ましい。	A
	安全教育の推進	・防災意識の向上を図っている。	全職員	年間	・学期ごとに計画的に避難訓練を行う。	・1学期は小中合同引き渡し避難訓練を計画したが当日大雨により中止となった。しかし事前の打合せにより、実践的な取組ができた。2学期は火災避難訓練を行った。	A	・来年度も継続して計画的に実施したい。特に小中合同訓練については今後も具体的な動きを想定して役割分担を行いたい。	避難訓練を通じ引き続き防災意識の向上を図ってほしい。	A
		・安全意識の向上を図っている。	全職員	年間	・1年生を対象に交通安全教室、春と秋の交通安全週間に登校指導を行い、交通安全について意識を持たせる。 ・朝終礼や学活を用いて、普段の生活での安全について考えるきっかけを作る。	・保護者の方にも協力していただき、年2回の登校指導を行うことができた。 ・例年実施している交通安全教室に加え、今年度はJA主催の交通安全教室を小中合同で行った。スタントマンによる事故の再現を目の前にし、交通ルールを守る重要性を再確認する機会となった。	A	・今年度に引き続き、年2回の登校指導を実施する。 ・朝終礼、学活の中で安全について取り扱うとともに、江津市や全国的に話題となる事象について情報の発信を続ける。	登校中 普段生徒がどのような行動をとっているか知ることが必要と思う、その上で指導するポイントを見極めることが大切と思われる。自転車登校での必要な技術と知識の習得をさせるとともに自己と他者の安全に配慮出来る様な指導が望まれる。また、定期的な自転車の点検(ブレーキ・タイヤなど)も必要	A
		・情報モラル教育の充実を図っている。	全職員	年間	・各教科や総合的な学習の時間等において、情報モラルに関する指導を随時行う。 ・情報モラル講演会を実施し、情報モラルについて考える機会を設ける。	・各教科や学級活動、長期休業前の集会等、様々なタイミングで指導を行うことができた。 ・江津警察署の方を招いて情報モラル講演会を2回行った。1回目は小学生と合同、2回目は中学生のみで行い、児童生徒の実態に合ったテーマについて考えることができた。	A	・不適切な書き込み等が見られることもあったが、生徒指導部と連携し、迅速に対応・指導をした。今後も繰り返し指導したり、生徒自身が考える機会を設定したりし、情報モラルに対する意識を定着させていきたい。	アンケート集計結果を見るとメディアコントロールに関しての結果に生徒と保護者に若干の乖離が見られる。保護者の約半数は家庭でのメディアの使い方に対し指導が徹底できていないようである。学校からも引き続き定期的な指導が必要と思う。	B
	チーム力ある組織づくり	・役割分担を明確にし組織的にチームワークよく取り組んでいる。	全職員	年間	・校務分掌を活用し、全員が組織的に取り組めるよう役割を明確にする。	・各分掌部会にミドルリーダーを配置しチームで動く体制を作り、計画的に企画会・職員会議を行いながら報告・連絡・相談を徹底する組織作りを推進した。	A	引き続き、報告・連絡・相談の徹底を行い、全員で情報を共有しながらさらに協働できる教職員体制を構築したい。	引き続き、報告・連絡・相談できる組織作りを推進していただくとともに、職員の負担を減少させるため、デジタル化の検討をお願いしたい。	A

(4) 家庭・地域と連携した信頼される学校づくり	積極的な情報発信と家庭・地域との連携	・家庭・地域に向けて、教育活動、生徒の様子等の情報発信に努めている。	全職員	年間	・各種たより、HP、メール配信等とおして、学校の方針や教育活動、生徒の様子等を適宜発信する。 ・月1回授業公開日や保護者が参加できる行事を設定する。	・定期的に学校だより、学年(学級)だよりやHPで情報発信できた。HPでは毎週「今週のトピックス」を、学校だよりは月2回発行し、月末には桜江町全戸配付した。 ・毎月1回授業公開日とし保護者が生徒の様子を参観する機会を定期的に設けた。	A	・さらに読み手を意識し、よりわかりやすくなるよう内容を工夫・検討していきたい。 ・より多くの保護者が参加できるように、計画的に案内を出し積極的によびかける。	学校だより等、定期的に作成され、HPにも掲載されており、情報発信できている。学校だよりは桜江町全戸配付され、地域の方にも中学校の様子を理解いただけている。 授業公開日も定期的に実施され、保護者の参観の機会を提供いただけた。引き続き、計画的な実施をお願いしたい。	A
	地域の力を活用した学習活動の支援体制の充実	・地域のことを考え、地域のために行動・実践する場を充実させている。	全職員	年間	・関係機関との連携により、地域のひと・もの・ことを活用した学習活動の支援体制を整える。	・各学年の総合的な学習の時間を中心に、地域の事業者やとごねっと石見と連携し、計画・実施・事後指導を行い、多くの支援を受け、生徒の学びも深まり、自分の将来に対して関心を高めたり、桜江町への愛着を深めたりすることができた。	A	・今後も総合的な学習の時間を始め教科等横断的に、とごねっと石見、市教委、各地域のまちづくり協議会との連携を強化し、ふるさとへの愛着と誇りの醸成とキャリア教育の推進に努めたい。	地域の事業者やとごねっと石見と連携し、桜江町への愛着を深める取り組みを実施できた。県教委が「ふるさと教育」の時間を引き下げる方針を示したが、今後も各機関と連携を強化し桜江町への愛着を深める取り組みの継続をお願いしたい。	A
	安全点検・整備による教育環境の保全	・定期的に安全点検をし、環境整備をしている。	全職員	年間	・学校施設の安全点検を月1回行い、安全を優先し、教育委員会と連携して速やかに対応する。 ・PTAと連携して環境整備を行う。	・月ごとに全教職員で安全点検を行い、早めの修繕や市教委への連絡を行い教育環境の保全に努めた。 ・PTA環境奉仕作業を年に2回実施し、その後保護者ととも校舎や通学路についての安全点検を行った。	A	・今後も定期的な安全点検を行い迅速な対応をして生徒の安全確保を行いたい。	引き続き、安全点検を実施し、早めの修繕や市教委への連絡をお願いしたい。 PTA環境奉仕作業の保護者数が減少傾向ですので、効率的な方法の検討をお願いしたい。	A
	教職員の資質・能力の向上	・教育的ビジョンをもち、常に指導力の向上に努めている。	全職員	年間	・具体的な教育課題に即した校内研修の充実を図る。	・全教員による1人1授業公開と校内教職員による各種研修を計画的に実施した。必要に応じて市教委や教育事務所から訪問指導を依頼し、研修を受けた。	A	・今後も新たな教育課題に向けて学び続ける教職員であるよう研修の場を計画的に設けていきたい。	引き続き、授業公開や研修を計画的に実施し、教職員の資質・能力向上への取り組みをお願いしたい。	A
	学校評価を活用した教育活動の実施・改善	・学校の取組についての評価や意見をもらい、組織的に受け止めている。 ・学校評価から取組の成果と課題を整理し、課題解決を図るための教育活動を実施している。	全職員	年間	・評価計画に基づき、生徒、保護者、教職員にアンケートを実施する。その意見や結果について教職員間で協議し、評価に生かす。 ・評価から出た課題を明確にし、よりよい教育を実践する。	・アンケートを計画通り実施し、その後全教職員で共有し、課題を共有し、改善点を検討する場をもった。	A	・各分掌部会の実施回数を増やし教育活動をより活性化させたい。	1学期振り返りアンケート以外は計画通り実施された。結果・課題を共有し、改善点検討の場をもたれている。今後も継続し、検討された改善の実施をお願いしたい。	B